

## 平成28年(2016年)12月期第2四半期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
 代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三  
 問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長 (氏名) 宮西 賢治  
 : (TEL) (06) 7635-1636

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年12月期第2四半期の連結業績(平成28年1月1日～平成28年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

	当第2四半期累計期間 (平成28年1月～平成28年6月)		前第2四半期累計期間 (平成27年1月～平成27年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	59,097	-	60,207	-	▲1,109	▲1.8%
営業利益	1,895	3.2%	1,987	3.3%	▲91	▲4.6%
経常利益	2,227	3.8%	2,081	3.5%	+145	+7.0%
四半期純利益	1,499	2.5%	1,416	2.4%	+83	+5.9%

## (2) 単体経営成績(累計)

	当第2四半期累計期間 (平成28年1月～平成28年6月)		前第2四半期累計期間 (平成27年1月～平成27年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	58,384	-	59,445	-	▲1,060	▲1.8%
営業利益	1,752	3.0%	1,869	3.1%	▲116	▲6.3%
経常利益	2,086	3.6%	1,960	3.3%	+126	+6.4%
四半期純利益	1,396	2.4%	1,327	2.2%	+69	+5.2%

## 2. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成28年1月1日～平成28年6月30日)の日本国内景気は、個人消費の停滞感が高まり、設備投資意欲が業種によりまばらな状況となるなど、足踏みが続きました。また、当社が注力しているアジア市場では、一部の新興国で緩やかな持ち直しの動きが見られたものの、最大市場の中国では景気減速が継続しました。

このような環境の下、クラレグループが目指す「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」の実現に向け、新中期経営計画『GS-STEP』において掲げた「アジアを中心とする成長市場の積極的な開拓」「クラレグループの強みを活かした高付加価値商材の開発」を積極的に推進致しました。

当第2四半期連結累計期間の連結経営成績につきましては、売上高は590億9千7百万

円（前年同期比11億9百万円、1.8%の減収）、営業利益は18億9千5百万円（同9千1百万円、4.6%の減益）、経常利益は22億2千7百万円（同1億4千5百万円、7.0%の増益）、四半期純利益は14億9千9百万円（同8千3百万円、5.9%の増益）となりました。

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

#### 【繊維関連】（減収、減益）

売上高は220億7百万円。前年同期比3億5千2百万円(1.5%)の減収。

##### （衣料分野）

- スポーツ分野は、学校体育衣料向けの生地販売や一部のスポーツアパレルでの在庫調整の影響を受け、減収となりました。
- ユニフォーム分野は、ワーキング用途の一部でアパレルでの在庫調整の影響を受けましたが、サービス用途、直需用途は堅調な販売となり、増収となりました。
- ブラックフォーマル分野は、注力しているロードサイド店向けの販売が伸び悩み、減収となりました。
- 機能原糸は、<ミントパール>が無撚糸タオル用途で新規顧客獲得などにより販売数量が拡大した他、<クラカーボ>も上海現地法人との協働が貢献し、全体として増収となりました。
- 上海現地法人での日系アパレル向けを中心とした縫製品販売は、堅調に推移し前年並みを確保しました。

以上の結果、衣料分野は減収ながら利益は横ばいとなりました。

##### （資材分野）

- 機能資材は、スポーツ靴用資材が低調な推移となりましたが、メディカル関連資材での好調な販売と新規開発商材の採用が貢献し、前年並みを確保しました。
- 産業資材は、高強力繊維<ベクトラン>やFRC（繊維補強セメント）用ビニロン、水溶性PVA繊維<クラロンK-II>が輸出を中心に堅調に推移し、増収となりました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、国内靴・雑貨用途向けの販売が伸び悩み、減収となりました。

以上の結果、資材分野は、減収、減益となりました。

#### 【樹脂・化学品・化成品関連】（減収、増益）

売上高は370億9千万円。前年同期比7億5千7百万円(1.9%)の減収。

- 化学品関連は、輸出品が円高による影響を大きく受け、減収となりました。
- 環境関連資材含むその他の分野は、活性炭の中国向け販売の減少や、輸出品が円高の影響を受けました。

(2) 平成 28 年 12 月期の連結業績予想(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)

当社の経営環境は、日本国内での円高・株安等に伴う消費マインドや企業収益の低下懸念に加え、英・EU 問題を震源とする世界レベルでの先行き不透明感、一部国・地域での政情不安等々を抱えており、今後の業績の下振れリスクと認識しております。

当社としましては、引き続き新中期経営計画『GS-STEP』の戦略執行に注力し当期業績予想の達成に全力で取り組みます。上記のような状況認識の下、売上高は下方修正いたしますが、高付加価値商材への取り組み強化、コスト圧縮を通じ、営業利益は年初公表から変わりありません。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
年初公表	1,250	40	40	25
今回公表	1,210	40	40	25

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

以 上